



京都 YWCA

1 2013

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

「内部被曝を知る連続学習会 パート1」

今こそ知ろう、 内部被曝の危険性

12月8日、京都YWCA主催内部被曝連続学習会の第1回目としてフリージャーナリスト守田敏也さんにお話をいただきました。以下はその概要です。



講師の守田敏也さん

〈広域に及ぶ汚染〉

原発はエネルギー問題として扱われがちだが、被曝の側面にもっと目を向けるべきである。汚染ホットスポットは東京にまで広がっている。原子力発電所内では100ベクレル/kgを超える廃棄物は放射性廃棄物として扱われるのだが、現在一般には8000ベクレル/kg以下なら普通に埋めてよいとしている。目につきにくい形でしか公表されていないが、関東の焼却場でも高い数値が出ており、焼却場労働者が危険にさらされている。放射能はあらゆる臓器に影響を及ぼす。心筋梗塞や突然死のほか、大量の鼻血、口内炎、下痢などの急性症状として表れることもある。

〈守られていない法律、過小評価される内部被曝〉

法律では人が受ける放射能は年間1ミリシーベルト以下にしなければならない（毎時0.114マイクロシーベルト相当）。毎時0.6マイクロシーベルトの空間は飲食等が禁止される放射線管理区域だが、東北新幹線に沿った地域はこれを大きく超えている。

放射能が遺伝子を傷つけることは1927年より知られており、広島・長崎への原爆投下後ヨーロッパで反対運動が広がった。米国主導のABCC（放射線障害調査委員会）によって放射線影響調査が行われ、それが今の基準の基礎となっている。調査は半径2キロ以内の初期放射線の影響に限定され、内部被曝を認めず、

核兵器の非人道性を隠している。内部被曝（アルファ線およびベータ線）は細胞分化・分裂に対し、外部被曝（ガンマ線）の数百倍のダメージを与える。特にアルファ線は電離作用能力が強く、DNAの異常再結合を引き起こし、その影響はある期間を経て表れることが少なくない。特に胎児・子ども、高齢者や免疫力の低下している人への影響が大きい。内部被曝はシーベルトの単位では測りきれないことも注意が必要である。

〈私たちは何をなすべきか〉

3.11では多くの人が避けられたはずの被曝をした。日頃より事故に備えた広域避難訓練や家族間の取決めをしておくべきである。

物流でモノが運ばれ、関西でも汚染食物が加工食品や外食産業などで使われている。自身も被曝者であり多くの被曝者を診てきた肥田舜太郎医師によると、内部被曝への対処法は、(被曝に対して)腹をくくこと、食事を少なめにし正しい食事で免疫力を上げることだという。関西は汚染のない食品を増産して東北に送るべきである。西日本は、危険の存在を気づかせてくれた東日本に負っているのだから。（上村兪巳子）

(本講演は公益財団法人京都地域創造基金の助成を受けて実施しました。)

YWCA・YMCA 合同祈禱週 2012 テーマ「暴力に勝利はない」

「日本在住フィリピン人女性の20年～妻として、母として～」

● 11月17日(土) 18:00 - 19:30 実施 ●

京都 YWCA 会員 廣澤恭子

今年の合同プログラムは、ゲストに京都在住の杉山カリッサさん(京都バグアサコミュニティ前共同代表)と福島から後藤キャサリン・ドリアさん(ハワク・カマイ・フクシマ会長)のお二人をお迎えしました。

日本で20年暮らして「あの人はフィリピン人よ」と言われる淋しさ。子どもから「参観日に来ないで」と言われた時の悲しさ。でもフィリピン人であることに誇りを持って生きていって欲しいと思う母の願い。そんな思いの中、キャサリンさんは福島で被災されたにもかかわらず地域の人々のために炊き出しや、色々な救援活動をされ、その時の人々の感謝の言葉がとても嬉しかったと話されました。

国は違っても人への思いやりを大切に、一生懸命活動されているお二人の話聞き、人との絆を広げてやがて日本を好きになっていただける日が、今は小さな点であっても大きな面になると確信を持っています。周りには支援する人や支援できる事がたくさんあると思います。

身体的な「暴力」だけでなく、構成している社会が人をはじき出すことなく、立場の弱い人たち(女性や

子ども)が生きづらさを感じることなく生活できることが改めて大切だと思います。何となく「あの人はフィリピン人」と言っていたのが差別的に思われる要素があるのだと反省しています。でも決してそうとも限らないと思います。日本には「郷に入れば郷に従え」と言う諺があります。少々古めかしいですが、どこか根っこにこういう精神が残っているとも思います。

私は YWCA・YMCA との絆を大切に、少しでも異文化を理解し何かお力になればと思います。



ゲストの杉山さん(左)と後藤さん

📖 オススメです!

移住者が暮らしやすい社会に変えていく30の方法

移住労働者と連帯する
全国ネットワーク [編]
合同出版 2012年発行(1,400円+税)



「コンビニが成り立っているのは移住者のおかげ?!」から始まり、「東北大地震後に活躍する移住者ボランティアたち」まで30の様々な視点から移住者にまつわる話がつづられる。かつて移民送り出し国であった日本が海外から研修・技能実習生や看護師・介護福祉士候補者を受け入れる社会となった経過や、移住者が置かれる現状をわかりやすく解説し、「日本食は甘い」という移住者ならではの指摘も盛り込まれている。

これからの社会を構成する私たちが国境を越え、日本にやってきた人々とどのようにかかわるのかを考える一助となる一冊。

*移住労働者と連帯する全国ネットワークとは
日本に住む移住者の権利を守り、その自立への活動を支え、多民族・多文化が共生する日本社会を作るために全国規模で活動している諸団体・個人のネットワークです。京都 YWCA・APT は移住労働者と連帯する全国ネットワークの構成団体です。(岡佑里子)

京都 YWCA 新グッズができました!

傘

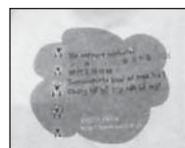
T シャツで大好評のあじさい柄。この柄を活かした第2弾グッズは折りたたみ傘です。黒色・青色・水色・黄緑色・赤色の5色をそろえました。普段使いのみならず、プレゼントにもご利用ください!(定価1,000円、京都 YWCA 会員価格 900円)



トートバッグ

「We support mothers!」の同意文が・ハンゲル・中国語・ベトナム語・フィリピン語と5言語で書かれています。とても丈夫で使い勝手は抜群! 2タイプ。

トートバッグの収益は京都 YWCA の保育サポート活動の資金とさせていただきます。(定価1,500円)



連続講座「子どもの育ちを支えるあなたのために」

第1回『こころの重荷をおろしませんか?』

連続講座の趣旨

京都YWCA親・子育て支援委員会では、今年度京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金を受けて、「子どもの育ちを支えるあなたのために」と題する全5回の連続講座を行っています。発達課題の有無に拘らず全ての子ども達の育ちを支えていくために必要なことについて、様々な視点で共に学び考えることを目的としています。初回と最終回には当委員会定例活動の一つで、言葉や発達に心配のある子どもを持つ「おやのだんわしつ」を組み込みました。その名前が示す通り、傾聴と共感の場であり、ピアカウンセリング的な意味合いを持つものです。

子育ては重荷ではないが、想いの放出が大事

第1回目は京都教育大学特別支援教育臨床実践センター教授の相澤雅文さんをゲストにお招きして、11月15日(木)に開催しました。参加者は乳児から中学生までの子どもを持つ親10名(同行の子ども1名)。小さなグループとなりましたが、その分お互いの存在を身近に感じ、リラックス

した雰囲気ですべて話が進みました。

相澤さんは養護学校や小学校等で教員経験のある特別支援教育の専門家です。大学ではソーシャル・スキル・トレーニングのための小集団活動を通じて子ども達と親の支援をしながら、教員の卵である大学院生達に実践による学びの場を創られています。教育現場、発達に課題を持つ子ども達、彼らの親達、という三者の生の姿を日頃から見られてるからこそ、参加者への共感を示しながら、ポイントで教育現場の現状の課題を指摘し、子どもの言動の背景にある心について解説をさり気なく挟まれました。相澤さんの笑顔に導かれるように、参加者からはふだん外では公言しにくい担任との連携の難しさ、友人関係の心配から日常の小さなことまで、フリートークらしく多岐にわたる話が飛び出しました。子育ては決して重荷ではない。でも、想いの放出が心を軽くすることを実感したひと時でした。

以降は身体ほぐしのワークショップや日常で実践できる支援法など2013年3月まで開催予定。詳細は事務局にお問い合わせ下さい。

(別所加恵)

シリーズ 福島から京都に避難して ⑤

「原発事故子ども・被災者支援法」に関して思う

西山 祐子

今年の6月21日に「原発事故子ども・被災者支援法」が議員立法で成立しました。これは、福島第一原発事故によって健康の不安を抱えて、負担を強いられている被災者の生活を守り支えることを目的としています。その支援対象地域や援助策等の基本方針はまだ決定していないことから、現在、支援法に関する意見交換会や勉強会や公聴会などが各地で開かれています。

まず、支援対象地域の設定に関しては3.11以前の公衆被ばく限度値年間1ミリシーベルトを遵守し、土壌汚染度も考慮に入れながら決定すべきだと思います。その基準を超えている地域の被災者には「避難の権利」を認め、各人が「避難するか」「留まるのか」を選択できるようにすること。避難者と汚染された被災地に残ることを選択した被災者への両方の支援が必要だと思います。

●避難者に対しては、

生活再建のための居住、就労、生活支援、そして健康管理面での支援を補償すること。家族と離れて暮らさざるをえない避難者には、家族に定期的に会うための交通費支給や二重生活の負担を軽減するための生活補助も行うこと。

●汚染された地域に残る被災者に対しては、

不自由な生活を強いられていることに対する感謝料を払うこと。放射能に感受性が強い子どもたちには、線量の低い地域へ一定の期間学校や学級単位で疎開する「移動教室」や長期休暇を利用しての保養を全面的に補助する等、被曝量軽減や外で遊ばないストレスの解消方法を盛り込むこと。

継続的で実効性ある支援を願う

また子どもにも大人にも定期的検診の機会を与え、不安やストレスを解消することができるようなプログラムやカウンセリングを取り入れながら、安心した生活を送れるための支援を継続的に行っていくことを盛り込んでほしいと思います。

そして、なによりも、被害にあったひとりひとりの声を聞き、ひとりでも多くの人が将来に希望を持ちながら生活できるように、実効性のある支援法になることを願います。



KBS ラジオ出演時の筆者(中央)

今後のプログラム

◆竹中 真 ジャズピアノコンサート
 2013年1月5日(土) 15:30開場、16:00開演
 ジャズ、ポップス、世界民謡、クラシックのジャズ化など竹中ワールドをぜひお楽しみください。
 ◆参加費：2,500円(会員2,200円)
 こども1,000円・・・お茶菓子つき
 ◆定員：50名

◆平和委員会主催プログラム
 ①フィールドトリップ「水俣訪問」
 2013年2月16日(土) - 17日(日)
 +18日(月)(オプション)
 ②「脱原発を決めたドイツ市民から学ぶ」
 2013年2月3日(日)

各プログラムの詳細は事務局にお問い合わせ下さい。

◆地域YWCAユース交流会
 2013年3月23日(土) 13:00 - 24日(日) 12:00
 一泊二日@京都YWCA
 ◆参加費5,000円

◆国際交流グループ主催
 伝統文化を楽しむ会 vol.10「日本の家庭料理」
 2013年1月26日(土)
 ◆参加費800円(一般)、500円(留学生)

◆連続講座「内部被曝を知る～命を守るために」
 *第2回：2013年1月12日(土)
 14:00-16:00 講師：山崎 知行(医師)
 福島での「子どもたちの健康相談」から見えてきたこと
 *第3回：2013年3月9日(土)
 14:00-16:00 講師：振律かつみ(医師)
 フクシマの放射能汚染と被曝を考える
 ～チェルノブイリ支援の経験から

ご寄付ありがとうございました。 敬称略 (2012年10月1日～2012年11月30日)

*一般寄付(クリスマス募金含)
 宮武美知子、上村愈巳子、吉川文一、
 和田清子、山村茂代、森律子、
 岡佑里子、ブルーボンキワラシ

*APT
 安藤いづみ、北垣景子、上村愈巳子、
 金春九、森律子、清水弥生、柳原清美

*ピアノ募金
 匿名

*国際委員会
 北垣景子(洛楽)、池上信子(洛楽)、
 筒井奈都子(国際交流グループ)

*東日本大震災被災者支援
 山本知恵

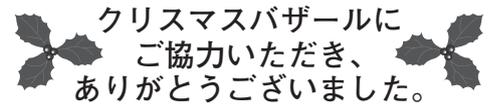
*平和委員会
 木戸さやか、弘中奈都子

*ミニホール・キッチン改装
 深井耀子

*活動グループ連絡会
 ミモザ

*親・子どもの育ち支援委員会
 平野富希、木戸さやか、赤尾陽子、
 藤本信行、巽真理子

*賛助費
 高島照子



以下の団体よりご協力いただきました。厚くお礼申し上げます。

(株)山田松香木店、(株)ユニティー、
 平野歯科医院、(有)飯室商店、(株)マイチケット、
 (株)オニザキ、(株)伊那食品工業、
 オ・グルニエ・ドール、(株)ティ・エム・エス、
 はなひろ、ドクターショール、
 よつ葉ホームデリバリー西京都

昆布革命

検索

(株)天満大阪昆布

ご注文・お問い合わせは

0120-141-528

11月・12月／理事会報告

- 被災者支援委員会
 - *新地町仮設住宅訪問：ドーナツ (12/8-9)、親子ライブラリー (12/15-16)、APT (2/9)
 - *新地町で製作されている「裂き織りコースター」の販売開始
- 大人の修学旅行「京都の中の朝鮮文化を学ぶ パート2」 4月14日または21日に予定
- 京都YWCA活動のビジョンとして「私たちが目指す社会」を文章化
- 運営委員会の2013年度活動計画について協議
 2013年度「90周年記念お祝い会」を実施する。(9/28予定)
- 内部研修会として2/9(土) 13:00-14:30に『2.11集会ってなに?』放談会を開催。

KYOTO YWCA No.512
 2013年1月号(1月1日発行)
 発行人 上村愈巳子
 発行所 一般財団法人京都YWCA
 京都市上京区室町通出水上ル
 電話 (075)431-0351 FAX (075)431-0352
 e-mail office@kyoto.ywca.or.jp
 URL http://kyoto.ywca.or.jp
 郵便振替 01080-9-1566
 口座名義 (財)京都YWCA
 定価 50円